

## ランチオンセミナー2

### 「癌治療のありかた—癌と紫イペ—」

---

川口 雄才 (関西医科大学第1外科学講座)

近年、癌に対する治療法として、手術、化学療法、放射線療法、温熱療法、免疫療法など様々な治療が行われているが、その臨床的効果は必ずしも十分とは言えない。最近、民間療法、特に機能性食品の癌に対するbiological response modifier (BRM) が注目され、種々の物質が開発されているが、その臨床的効果も十分とは言い難い。現段階での癌治療は遺伝子治療に夢を託しながらも、暗礁に乗り上がっているのが実状だと思われる。

しかし、今現在、癌で苦しんでいる多くの癌患者さんがいるのも事実である。この様な癌患者さんは、再発・転移に苦しみ、そして死の恐怖に苦しんで居られると思います。医師として、人間として死の恐怖に苛まれている癌患者さんを如何にして癒すべきなのか。ただ単に西洋医学では治療できないから死の準備をしてはと云えばいいのか。機能性食品の役割は。

今回我々は、機能性食品、特に紫イペを術後補助療法として併用し、末期癌患者さんに投与することにより、その効果を検討すると共に、様々の癌患者さんのドラマを紹介しつつ、これからの医師の癌治療のありかたについて考えて行きたいと思います。